



エンジェル ストライカーズ

ANGEL STRIKERS

小説 黒井弘騎

挿絵 soba

第一話	降臨！ 五人の天使	006
第二話	切り開く未来、逃れえぬ過去	061
第三話	深淵の死闘	113
第四話	淫獄のソードエンジェル	159
最終話	全滅！ エンジェルストライカーズ	194

登場人物紹介

Characters



リョーコ(ソードエンジェル)

覚醒後急成長を続ける隊のエース。快活で明るい性格だが正義感と意志力は人一倍強く、戦闘時には凛々しい表情も見せる。

セーラ(エンジェルロード)

隊の年長者でリーダーを務める。慈愛に満ちた包容力と厳格なリーダーシップを併せ持つ隊員達の頼れる存在。

マリス(ラヴェイジエンジェル)

内向的で気弱な隊最年少の少女。幼げな顔立ちと可愛い容姿に似合わず類稀なる潜在能力を秘めている。

リンファ(ブレイドエンジェル)

遺伝子操作によって生み出され幼少より兵器として育てられた少女。強気で気性が荒く直情的な面がある。

レイファ(ワイズエンジェル)

リンファの双子の姉。冷静で計算高いクールな天才で、妹とは正反対に滅多に感情を表に出さない。

苦しそうに、吐き出すように言葉を紡いでいくセーラ。それは自分自身へも投げかけられていたようだった。そして――、

「……今できる事がある。だったら、それをするだけ。言うのは簡単だけど、実行するのは難しいわよ？」

しばしの沈黙の後。何かを振り切ったかのように、セーラは二人に語りかけた。

「わかっているわよね二人とも？ わたし達に……エンジェルストライカーズに失敗は許されない。絶対に生きて帰る事……これが、わたしからの命令よ！」

「セーラさん……そ、それじゃ！」

一瞬呆気にとられた二人だったが、お互い顔を見合わせると、すぐさま隊長の後に続く。「エンジェルストライカーズ、総員出撃！ 目標……ゼノンフォートレス!!」

※

一方その頃――ゼノンフォートレス内部。

「くはああ……ああ！ ああ！ あつあああああああ！」

無人の研究室内に、無機質な機械の駆動音と、辛そうな女の嬌声が木霊する。屈辱にまみれた媚声の主は、囚われた双子の天使――リンファとレイファだった。

二人はそれぞれ、円形の手術台に磔にされていた。スカートは大きく捲れ、露にされた秘所には穴の前後を問わず野太いホースが挿入されている。それらのチューブは一定の間隔で吸引運動を繰り返し、魔力エネルギーを吸引しているのだ。

「いやっ、ま、また吸われています……お、お尻から魔力が吸われ……くふううふうっ！」
不気味な駆動音を立て、吸引機械が駆動を再開する。まるで内臓そのものを引っ張り出されるような強烈な感覚に、レイファは四肢を引き攣らせて悶絶した。

「レ、レイファ！ しつかりしろ……あ、あああ！」

隣りあった姉の惨態に、悲痛な声を上げるリンファ。だが自身にもバキユーム吸引が開始されるや、強気な妹も同様に惨めな声を搾り取られてしまっていた。

「くうう、こ、こんな……うああっ！ 魔力が、ぬ、抜け……うああ、あ、あああっ！」

魔力をエネルギー源とするエンジェルにとつて、それを奪われる事はすべての力を封じられるに等しい。身体能力は普通の人間と同程度にまで衰え、与えられる快樂にまるで抗う事ができない。必死で四肢をもがかせても、拘束を緩める事さえできなかった。

その影響は身体だけでなく、魔力で構成されている変身スーツにも及んでいた。エネルギーを失ったコスチュームはもはや布同然の防御効果しかなく、着装者を守る役目を果たしてはくれない。胸生地とインナーは無残に引き裂かれ、二つの乳果が露出されていた。

曝け出された女の急所には、吸引チューブ以外にも、それぞれ残酷な快樂拷問具が取りつけられていた。赤く充血した両乳首と、包皮を剥かれたクリトリスには、金属製のリングがぎつく食い込んでいる。それらは鋭敏な局所をきつく締め上げながら、間断なくバイブレーションを繰り返して快樂豆を刺激しているのだ。

「はあ、はあ……くあああっ!! くそお、ま、またっ……乳首、また震え……はああっ！」

「レ、レイファ、しつかり……ああつわたしもだめつ、こ、これは許容限界です、クリトリスの感度が異常すぎます、振動、効きすぎて……うあ、あああ！」

ヴ、ヴヴヴヴ！ 無慈悲な音を立てて振動を続ける、金属製の拷問リング。敏感すぎる急所を三箇所同時に直接責め立てられ、切なすぎる快感が駆け抜ける。しかも今の双子は魔力を奪われ、快楽に対する耐性を完全に失ってしまっているのだ。そんな状態で剥き身の肉豆を直接刺激されては、さしもの変身ヒロインとて恥知らずな屈服を免れない。

『イ、イクツ……また、またイクううう！』

互いに声を震わせ、同時に屈辱の絶頂を迎える天使姉妹。大人びて発育した妹の秘所と、まだ無毛の未成熟な姉の幼裂が同時に痙攣し、大量の愛蜜を噴出する。

「はあ、はあ……あ、ああつ！ だめえつ……イ、イつたら……ま、また吸われるう！」
無防備に放心した絶頂の瞬間は、魔力を収奪する絶好の機会だ。アクメの余韻に浸る余裕さえ許さず、吸引マシンが間髪を容れずに猛烈な吸い上げで追撃する。

「あ、ああ！ だめですつ……イつたばかりなのに……これ、つ、強すぎます……ッ！」
未だ溢れ続けている絶頂蜜ごと魔力を吸い上げられ、凄まじい虚脱感に襲われる。絶頂直後の敏感すぎる肉体を責められて、レイファは頤わがはを反らし悶絶した。

（い、いけません！ こ、このままでは……もう無理です、耐えられなくなる……！）

イクたびに魔力を吸われ、力を失いつつそう脆くなった肉体を休む間もなく責められる。加速度的に感度を増していく肉体は、衰しいぐらい簡単に屈服してしまう――。



「レ、レイファ！ ダメだつ……も、もう耐えられない、ボクも、ま、またイク……っ！」
「あつ、リンファ、リンファ！ しつかりしてください、平常心を保ち……あああああつ
だめええ、わ、わたしも……わたしも……お！」

『イ、イクツ……あああ、また、またイっちゃううう……ううく!!』

姉妹揃って迎える、間髪を容れずの連続アクメ。またしても大量のエナジーを吸収され、二人は四肢を引き攣らせて悶絶した。

「はあ、はあ……ああ。だめ……もう、魔力が……あ」

蕩けきったアへ顔を晒し、脱力した身体を手術ベッドに横たえる敗北の姉妹。ぐったりと脱力しきった二人の前に、白衣を纏った男が近づいていく。

「今回の魔力回収はここまでか。貴重なサンプルだ、壊してしまうのは惜しいからね」

「はあ、はあ……き、貴様……あつ！」

「ドクター……シニスター……！」

喪心していた双子姉妹は、反射的に意識を振り起こした。地球侵略の全指揮を執る大幹部の前に、正義の怒りが二人のヒロインを突き動かしているのだ。

「ごきげんようブレイドエンジェル、ワイズエンジェル。元気そうで実に結構な事だよ」

射貫くような眼光にも少しも動じない。冷たい笑みが、底知れぬ不気味さを感じさせた。

「魔力エネルギーは非常に稀有、かつ有益な代物でね、これを君達から頂く事は同時に戦う力を奪う事にも繋がる。実に効率的なプランだとは思わんかね？」

「さ、賛同しかねますね。こんなくだらない手段、極めて非効率……うああ、お、お尻……くひいッ！」

あくまで理知的な態度を貫こうとするレイファだったが、再び開始された責めに言葉を封じられた。たつぷりと開発されたアナルを吸いたてられ、たまらない肛悦が駆け巡る。

「それでもないさ。こうして、君達の弱点も同時に研究できるわけだからね……どうやら報告通り、君はアナルが弱点のようだねワイズエンジェル」

「な、何を……うああああ、あつああああ!!」

今までエナジーを吸引するだけだったホースが、突如新たな動きを加えてきた。前穴同様に、腸奥でも猛烈なバキュームが開始されたのだ。

「や、あつああ!! いや、お、お尻っ……うああああ、お、お尻はだめです……うううう!!」
先の敗北でたつぷりと可愛がられたアナルは、ワイズエンジェルにとって最大の弱点として開発されてしまっている。耐え難い肛悦に、レイファは長髪を振り乱し悶絶した。

「レ、レイファ! くそっ、この卑怯者め!!」

「卑怯? 大いに結構! 我々は正義の味方ではない。目的のためにはいかな手段も取る」
クイツと眼鏡を直すと、シニスターはその名の通り、邪悪そのものの笑みを浮かべた。

「そう……君達も、わたしの計画達成のための『手段』になつてもらおうよ。真に求める獲物を釣るための餌に……ね」

「ふううっ……む、無駄ですよ! 大方、わたし達を囿おとにして残りのエンジェルストライ

「や、やだ！ 助けてママあ……おねーちゃん！」

「マ、マリスッ！ 待つてて、今すぐ……」

仲間の窮地に、すかさず駆けつけようとする変身天使。だが、彼女とて状況は同じなのだ。意識がそちらに向いた隙をつき、床を這い進んでいた肉蛇どもが襲いかかる。両の美脚にそれぞれ一匹ずつの触手が絡みつき、とぐろを巻いて柔肉を締め上げてきた。

「くっ！ このっ……邪魔しないで！」

忌々しげに吐き捨て、リョーコは足元の怪物に刀を振り下ろした。魔力を纏った必殺の刃は、先刻同様軽々と怪物を両断する——事は、なかった。

『んはあ、イ、イキます……お尻またイクツ……お尻でイクの、止められせんっ！』
スクリーンから流れる甘い嬌声。流れ込む禁忌の肛悦が、リョーコから力を奪う。

「うあっ……そ、そんな！ レイファが、ま、また……んくうううう！」

どれほど意識を研ぎ澄ましても、突発的に訪れるアクメの快楽を防ぐ術はない。甘いオルガスムスにお尻の奥を射貫かれ、リョーコの集中は一瞬で碎かれた。抜けば玉散る氷の刃は不様に狙いを外し、粘液のヌメリに弾かれて致命打を与えられない。

「く！ し、しまっ……ぐああああっ！」

抵抗の意志を見せた獲物に、もはや遠慮は要らない。両足に巻きついた触手はニーツックスとブーツを歪めながらも肉にまで食い込み、凄まじい怪力で両足を締め上げてきた。肉が軋むほどの苦痛に、リョーコはたまらず苦悶の声を上げる。

(く！ いけない、魔力防御まで弱まっているなんて！)

快楽に意識を散らされ集中できない現状、魔法天使は本来の力を十全に發揮できていなかった。スーツの出力は弱まり、防御力と共に装着者の身体機能も低下している。太ももに絡む触手を引き剥がそうにも、いつも通りの力が出せなかった。さらには――、

「こ、この……ひぁ!! や、ふうううっ……ん！」

必死で怪物と格闘しながら、場違いな嬌声を漏らしてしまうソードエンジェル。激しく身体を動かすたび、インナーと肌が擦れ、それだけで甘い電流が走ってしまうのだ。身じろぐたび豊富な尻肉がスカートに圧迫され、勃起乳首と胸生地が擦れあう。普段は心地よく思えるボディスーツのフィット感は、今や性感を煽り立てる快楽の源泉だ。

肉悦に翻弄されつつある肉体に対し、陵辱者達はより有効な責め手に出た。粘液にぬめる軟体触手が背後から接近し、形のいいヒップをぬるりと舐め上げる。

「ん、ふっ!! こいつ、ど、どこを……んあああっ！」

一番疼いていた弱点を突然優しく愛撫され、思わず甘い声を上げてしまう変身天使。集中の途切れたところで両足を左右に引きずられ、その場に押し倒される。

「ああっ!! し、しまった！」

両掌をつき、咄嗟に受身を取る。だが起き上がるよりも早く、地面を這う肉蟲が両腕に絡みついた。一瞬の隙に、リョーコは四肢を地面に拘束されてしまう。

(くっ……まずい！ この姿勢じゃ、刀が！)

なんとか手放さずにいるものの、このままでは愛刀を満足に振るえない。それはソードエンジェルにとつて、最大の攻撃手段を奪われた事を意味する。それでも諦めず跳ね起きようとするリョーコだったが、一度相手を搦め捕った触手はそんな抵抗を許さなかった。ぬる……にちゅ、にちゅ。両太ももに巻きついた怪物はヌルついた先頭部をいやらしく蠕動させ、柔肉を揉み解すようにして性感を責め立ててくる。極細のミミズは五本の指に絡みつき、グラブ越しに粘液を塗りつけながら指の一本一本をシゴきたててきた。

「ふ、くう！ な、なにを……くふううっ！」

本来なら何も感じるはずもない、攻撃とも言えないお触り。だが、これまで感覚だけでは何度も絶頂しているのに、直接的な愛撫を一度も受けていない肉体にとつては、それだけでも効果覿面だ。もどかしい切なさに、リョーコはたまらず甘い声を上げてしまう。

性感愛撫が有効と見るや、ゼノンビーストは攻撃をそれ一本に絞ってきた。先ほど尻を撫でた肉舌が背後から迫り、犬のポーズで突き出されているヒップをゆっくりと撫で回す。スカートの上からヒップの割れ目に食い込まされた触手が、小刻みな前後運動を開始する。往復のたび少しづつ力が強くなり、尻谷が押し開かれインナーが食い込まされた。

「く……や……だめ！ い、今、お尻は……」

『お、お尻……いいです。お尻気持ちよすぎて……限界ですう、お尻よすぎますうう！』

「くー！」

スクリーンの中での狂態が、少女の意識を代弁する。伝わってくる肛悦と実際に犯され

る体感とが重なりあい、肉と心の両方を同時に犯されていく。

(くっ……ダメ！ ダメよりヨコ……平常心を保つの。今は、戦闘中のよ……！)

自らを鼓舞し、快楽に抗わんとする変身天使。だが、感覚だけでなく実際に肉を嬲られる快感は、あまりに快美だった。尻割れを擦られ、あるいはもも肉を愛撫されるたび、どうしようもなくそちらに意識を持っていかれ集中できない。

(た、耐えるの……耐えるしかないわ。今は耐えて、逆転のチャンスを……！)

※

卓越した精神力を誇る部隊のエースでさえ、反撃の機会を掴めない。それなのに、精神的にも未熟な幼い天使が、同様の色責めに耐えられるはずがなかった。

「ひ、ひ……あああ。きやふああああっ！」

小さな翼を震わせ、空中で身悶えるラヴエイジェル。マリスが味わわされている陵辱は、リョーコへの責めより遥かに激しい淫獄だった。

「た、たすけてママあ、おねーちゃん！ やだあ、ぬるぬるしたのいやですう〜！」

どれだけ呼んでも、助けの手が差し伸べられる事はない。まず狙われたのは、未成熟な肉体の中で最も熱く蕩けてしまっている部分——数えきれない射乳絶頂を疑似体験させられている両の乳房だった。ドレスの上からでは膨らみさえわからないほど慎ましやかな乳肉を、二匹の肉ヒルが無理矢理に絞り上げていく。

「ひゃっ……そ、そこっ……きやはああああ！」

インナーと擦れるだけでも辛かった部分を、ぎちゅつときつく締め上げられた。瞬間、痺れるような乳悦に、マリスは背筋を仰け反らせ嬌声を上げる。

(な、なんですか？ 今ビリッて……おっぱい、電気が流れたみたいですよ……!?)

それは、幼い天使にとつて未知の感覚だった。小振りな蕾はまだ未熟で、性感帯としての機能は持ち合わせていない。なのに慈母の熟れた性感を移植され、少女の乳房は突然鋭敏な快楽器官へと急変化しているのだ。熱く疼く乳肉を揉まれるたび、少女が今まで知らなかった肉の悦びがどんどん湧き出してくる。

「はあ、はあ、はあ……は、あ！ やあ、な、なにこれえ……ふああ、あ……あああ！」
痛いような、熱いような、痒いような——そのすべてを備えながら、そのどれとも違うもどかしくて、切なくて、辛くて——いやなのに、恥ずかしいのに、

(だめ……き、気持ちいいです。おっぱいモミモミされるの、す、すごくいっ……!)
本能的にこれが『だめ』な事だとわかるけど、そんな背徳感さえもが快感のスパイスになつてしまう。子宮は熱く蕩け、漏れ出す愛液は太ももへまで糸を引いていた。

新鮮な蜜に惹かれ、新たな触手が股下へ殺到していく。回虫に似た細蟲は一匹一匹は小さいが、その数が凄まじかった。何十というミミズの群れが、スカートを掻い潜つて足の付け根へ押し当てられる。細紐達はレオタード状のインナーを器用に捲り上げ、その細さを生かして下着の内側へ潜り込んできた。

「ひゃううっ！ そ、そこっ……やだあ。そんな恥ずかしいところ、入ってこないで……!」

『そこ』が本来どんな箇所かさえも知らないマリスだが、女の子として恥ずかしいという意識だけはある。顔を赤らめ必死に足を閉じようとすると、逆に拘束触手達によつて大きく股を開かれ、余計に恥ずかしいM字の大開脚に固められてしまった。

「や、あ。こんなかつこう……か、かえるさんみたいで恥ずかし……んひいいいっ！」

恥辱に涙する暇さえ与えられない。蜜泉にまで辿り着いたミミズの群れは、競うようにして身体を肉丘に擦りつけ、連続的な摩擦で少女の秘丘を可愛がつてきた。殆ど起伏さえない肉唇を執拗に捏ねくり、小さなクレヴァスを何度も何度も穿られる。

「や、やあ、やあ。そ、そこ触らないでえ……む、むずむずするです。お、おまたむずむずすると……あひやあ、ま、またおしつこ漏れちゃうですう！」

触手の蠕動に応じ、ひくついた秘唇から新たな愛蜜が溢れ出す。それが実際には尿ではなく快感の証なのだと知らず、初心な女の子は恥辱と背徳感に涙を流した。

（た、助けてママあ。マリス、このままじゃいけないコになっちゃいそうですう……！）

『快樂』という名さえ知らぬ魔物に、身体と心を内側から溶かされていく。自分が自分になくなっていくような恐怖に、マリスは心の中で母親に助けを求めた。

だが、いつも優しく支えてくれた慈母は、今や彼女に助けを示してはくれない。それどころか目の前で喘ぎ狂い、マリスに墮落の心地よささえ示しているのだ。

『はあ、はあ、はあ……ふあああ！ ま、またおっぱいイってるわあ……い、いいわ。気持ち悪い蟲におっぱい吸われるの、き、気持ちよすぎるのお〜！』

「うあつ……だめですつ！ マ、ママまでそんなこと言っちゃ……ひゃあ、んひいい〜！」
偉大な母親でさえ耐えきれなかった乳悦に、足手まといの自分が耐えられるはずがない
——そんな諦観にも似た弱い感情が、少女から抵抗の意志を奪っていく。魔力防御を失つたコスチュームは触手達の搾乳に耐えきれず、ビリビリと音を立て引き裂けた。

「ひつ……や、やだあ！ おっぱい、は、恥ずかしいですう〜！」

幼いとは言えマリヌも女の子だ。裸の肌を直に晒す恥辱に、顔を真っ赤にして恥じらう。咄嗟に胸を庇おうとするも、拘束された両手は動かせない。インナーまでもが剥ぎ取られ、小さな乳房が剥き出された。

あどけない少女の乳房は、やはりまだまだ発展途上のものだった。ボディスーツの締めつけから解放されてなお起伏は乏しく、あるかなしかの可愛らしい膨らみが認められるだけ。青い果実と言うのさえ早い、実をつける前の蕾のような可愛らしい幼乳だった。

そんな未熟な乳房も、許容範囲を超えた肉悦に如実な反応を示していた。綺麗な乳肌はほんのりと上気し、甘酸っぱい発情臭を匂わせている。小さな乳首は真っ赤に充血し、痛々しいほど硬く勃起していた。

果肉さえない薄胸の中で、唯一食べ応えのありそうな美味部位へ、貪欲な陵辱者が迫る。ヒルに似た触手が大きく丸口を開き、勃起しきった肉豆を一口でぱくりと呑み込んだ。

「ひゃつ……そ、そこ、さきつぼ……んひいっ！」

ぱく、ちゅるんっ！ 両方一緒に乳首を食われ、軽く吸い上げられた。それだけで、声

にもできないほどの快感が駆け巡る。マリス自身に経験はなくとも、感覚共有させられた乳房は、啄つばまれ吸引される悦びをたっぷりと知ってしまったのである。ずっと望んでいたあの快楽が、今こそ直接叩き込まれていく。

「は、はああ……あ、あつあああゝ!!」

じゆる、じゆる、じゆるじゆるじゆる！ ヒルジみた触手達は、セーラを甦る幼虫と同じ、いやそれ以上の激しさで小さな肉豆を吸い立ててきた。

（す、吸われてます……両方一緒に、ちゆるちゆるつて……ママみたいに、おっぱい、食べられちゃってますう！）

実際に体感する乳悦は、ただのイメージとはレベルが違った。肉粒を締め上げられる痛み、乳腺を吸われる切なさ、乳頭をシゴかれる搔痒感。それらすべてが混ざりあつて、とも言われぬ虐悦に昇華する。あまりの快感に、マリスは腰まで振つて悶え狂つた。

「や、やああ……んん！ だ、だめですう……きゃふう！ おっぱい、おっぱいい……」
『おっぱい吸われるの、気持ちよすぎるわあゝ!』

ろくに言葉にもできない声を、墮ちた天使が雄弁に代言する。敬愛する母親の言葉は、素直な養女の耳に否定しようのない真実として刷り込まれていく。

（ああつ……や、やっぱり！ 気持ちいいですよママ……これ、仕方ないんですよ？）
偉大な母さえ認めざるを得ない快感。そんなものに、自分が逆らえるはずがない――。

「マ、ママあ！ マリスもです……いいです、おっぱい、き、気持ちいいです……う！」

言ってしまった。認めてしまった。いつも自分を引つ張つてくれる母を信じ、恐る恐る受け入れてみれば——もう、引き返せなかった。

「はああん……いい、いいっ！ 気持ちいいですう……おっぱひも、おまたもっ！ にゆるにゆるされるの気持ちいいんです、ママあ、ママ、ママあ〜！」

初心な美貌をうっとり蕩かせ、母と同じ辱悦に感じ入る。股間を擦られるムズ痒い刺激も、乳首を吸われる切ない悦びも、何もかもが気持ちいい。

最初から限界だったのだ。一度認めてしまえば、あとはもう、一気に墮ちるだけだった。勃起した乳首を強く吸い上げられ、同時に肉ミミズにクリトリスをシゴかれる。敏感すぎる女の急所を同時に責められ、意識が快楽に塗りつぶされていく。

「ひあああ……す、すごお！ そ、そ感じすぎます、そ、そこばつかそんなにされたらあ……ひやああまたビリビリします、また、またママみたいに……」

お腹の奥が熱くなる。今まで何度も送り込まれていた絶頂感が、自分の中で湧き上がる。(ああっ……キチャいます。ママみたいのキてる……気持ちよすぎて、も、もう……！)

名前さえ知らない感覚に、脳裏が染め上げられ——、

『イ、イク……イクわっ、またイクうう〜！』

「ああ、マリスもです！ マリスもママみたいに……ママと一緒にイクですう〜！」
意味さえわからないまま『イク』という言葉を口にし、初めて味わう肉の悦びに酔い痴れる。未熟な幼乳からは母乳が噴き出す事はないものの、感覚と体感の混じりあつた絶頂

の深さは母のそれを超えていた。

「はひいひい……イ、イ！ イひいひい！」

背筋を仰け反らせ、腰を突き出し身悶える少女天使。M字に開かれた両足は辛そうに痙攣し、触手達に弄られ続ける股間からは大量の愛蜜が噴出する。無垢な美貌は初めて味わう女の悦びに、あさましく蕩けきっていた。

「はあ、はあ……はあああ。あ、ああ……」

やがて引き攣っていた全身から力が抜け、仰け反らされていた頤ががっくりと下がる。初めて肉で味わうアクメに疲労困憊の少女天使だったが、今も吸われ続ける小さな胸の奥では新たな感情が芽生えていた。

（す、すごい……ママ、これすごいです。でも……マリス、もつと……ほしいです……う）
射乳という明確な解放が存在しない分、幼い乳絶頂はもどかしさを残すものだった。目覚め始めた少女の官能は、知ったばかりの快樂の味をもつと貪ろうと、絶頂直後にして早くも新たな快感を欲し始めている。

そんな従順すぎる少女の弱みを、快樂の使者は容赦なく突いてきた。物欲しげに勃起したままの乳首を、再び肉ヒル達が吸引し始める。

じゅる……ちゅる、じゅる、じゅるじゅるじゅる！

「ひやあつ！ そんな、ま、また吸われ……ひいひい何これ、さ、さつきよりすごい！」
絶頂したばかりの肉体は、さらに快樂への抵抗力を弱めてしまう。そんな事さえ知らな

い初心な少女は、辛いほどの快感に舌を突き出して悶絶した。

「だ、ダメ……だめですう！ こ、こんなのすぎすぎて……ああ、ち、力が……抜け……」
快楽と引き替えに加速度的に力が抜け、魔力が失われていく。ゼノンピーストは母乳を貪る代わりに、少女の乳首から魔力エナジーを直接吸引しているのだ。墮ちた隊長同様に魔力を収奪されたラヴエイジエンジェルは、正気を保つための精神力さえ失っていく。

「はああ、ら、らめえ……うあ、あ……あ、あ」

正義の光を宿していた天使の瞳が、とろんと快楽に淀む。抵抗力を減じた少女へ、さらなる追い打ちが掛けられた。野太い男根状の触手が頭上から迫り、半開きで涎を垂れ流す唇へぐつと押し当てられる。

「ふあ……ああ。やあ……んっ。やだあ、お、お口にまでえ……はあ、あむううっつ！」
反射的に顔を背けるマリスだったが、力を失った現状で触手の怪力に逆らえるはずもなかった。可憐な唇は力づくで押し割られ、粘液まみれの男根を喉の奥まで頬張らされる。

「ふむっ……ん、んむ！ んぐぶふうううー！」

喉奥まで一気に突き入れられ、狭隘な口壺を埋め尽くされる。まともに息さえできず、涙目で苦悶する少女天使。含むだけで限界の幼口を、肉蟲が激しいピストンで責め犯す。

「はむ！ んむ、んむうう！ ぐっふうううー！」

じゅぶ、じゅぶじゅぶじゅぶ！ 猛烈なイラマチオに、涙を流し苦悶する変身天使。疑似体験で慣らされた胸とは違い、口腔での快感は未体験だ。ヘッドドレスが乱れる



悔しさに震えながらも、今は男達の命令に従うしかない。

疲弊した身体に必死で力を込め、ぎゅっと太幹を掴んで根元から抜く。刺激に反応しベニスが脈をうち、溢れ出す先走りにグラブがヌルヌルと汚されていく。

「そうそう、クズはクズなりに誠意を示して頑張れよ。ってわけで、俺のも頼むぜ」

新たな肉棒が、天使の顔面に突きつけられた。粘っこい精汁を零しながら、巨大なペニスが口唇に擦りつけられる。濃厚な性匂が鼻をつき、口の中に雄の味が広がった。

(くっ……ま、また口でしろというのね。こいつら、いつもこんな事ばかり……!)

通常のセックスが禁止されている以上、欲望の捌け口は限られている。一つは今も突き犯されている禁忌の穴。もう一つは、純真な乙女にとってそれ以上に許せない場所だった。

「どうした？ とつとと唾えろよ。いつもみたいにザーメンたっぷり飲ませてやるからよへへ、ふつといチンポおしゃぶりして、ザーメンごくごく飲むの大好きなんだろう？」

(っ……だ、誰が！ 誰が、こんなもの……!)

兵士達の下卑た言葉に、屈従のヒロインは内心怒りを燃え上がらせる。

戦士である事を選んだ時から、ロマンチックなファーストキスの夢など捨てている。だが清純な少女は、唇を使つての性行為に、激しい嫌悪感を抱かずにはいらなかった。

仲間達を助けるためならどんな犠牲も厭わない献身の天使だったが、自ら肉棒を咥え、舌と喉とで奉仕するフェラチオ行為だけは、未だに自尊心が軋んでしまう。

(うあ……す、すごい匂い。すごく熱くて、脈打って……おぞましい……!)

目に見えなくても、いや、視覚を封じられてるせいで、余計に敏感に感じられてしまふ。こんなものにお口でご奉仕するなんて、考えるだけでも気が遠くなる。リョーコは無意識の内に、思わず顔を背けてしまっていた。

「おい！ 何チンタラしてんだよ。とつとと唾えろよ。何でもするんだろ？」
「く……う、うう。わ、わかつてるわ。は……はあ、ん……!!」

だが、だからと言って拒絶する権利はない。大切な仲間の安否がかかっているのだ——
リョーコは自らにそう言い聞かせ、自ら唇を開き巨根を咥え込んだ。

「はあ……あむう、ん、んん。ふあ……お、おつき……ん、んん！」

実際に口に運んでみれば、そのサイズは予想を遥かに越えていた。亀頭だけでも自分の拳骨ぐらひはあるだろうか。はしたなく唇を限界まで広げても、先端を含むだけで精一杯。狭隘な口壺は一瞬で埋め尽くされ、口の中いっぱいに猛烈な雄の匂いが充満する。

（うあああ……す、すごい匂い。大きくて、熱く……お口の中、いっぱい……!）

まるで、お口の中を男に支配されてしまったかのようにだった。苦しげに息を荒らげる少女だが、当然、これだけでは帝国兵の獣欲は満足しない。

「おい、何ぼつとしてるんだよ。口マンコでの奉仕の仕方、今までたつぷりと教え込んでやっただろうが。雌豚らしく舌動かしてチンコしゃぶりながら、喉全体で扱くんだよ！」

「んう……つふ、く、ううう！ ふうう……ん、んんん！」

あまりの屈辱に、涙が溢れる。男の言葉通り、この牢獄では従軍慰安婦として様々な奉

仕方方法を実地教育された。口で男を悦ばせる方法、手で男を慰めるやり方。男が悦ぶような腰の振り方や、多対一での奉仕の仕方など——ついこの前まで性経験さえなかつた少女は、この数日で従軍慰安婦としてたつぷりと調教されてしまっているのだ。

「わ、わかつたわ……はむうう、んん！ んむう……ちゆる、れろ、れろ……ん」

言われるままに舌を動かし、亀頭をしゃぶる。ゆつくりと頭を動かし、口壺全体を使って竿を抜く。巨大な肉塊は敏感に反応し、濃厚な精液を舌先に吹き零した。入れられただけでも口いっぱい広がっていた雄の風味が、味蕾みづかみに直接塗りつけられていく。

「んぶあ……ふあ、ごほ、げほっ！ こ、濃くつて……ぐうう、き、きつい……い！」

毎日飲まされているとはいえ、決して慣れない雄の味。濃厚なエグミに、たまらず咽せてしまう少女天使。身体が勝手に拒絶して、汚棒を咄嗟に吐き出そうとしてしまう。

「おい、何吐き出そうとしてるんだよクソアマ！ せつかくのご馳走なんだぜ、たつぷり時間をかけて味わえよ……喉の奥で直接よお！」

だが、首輪で繋がれた雌犬に、そんな粗相は許されない。がつしりと後ろ髪を掴まれ、頭を固定されたまま腰を突き込まれた。逃げる事さえ許されず、喉奥にまで極太ペニスが入入されていく。

「んぶううっ！ んう、んぐううう！ ひぐつ、き、きつつ……んぐううう……！」

ずぶ、ずぶずぶずぶずぶ！ すでに限界だったのに、力任せに突き入れられて顎が軋む。乱暴な口辱に、たまらず悲痛な声を上げるソードエンジェル。咽喉にまで亀頭がぐっぽり

とはめ込まれ、口腔全体を巨大ペニスでパンパンに肉詰めされてしまう。

(うああっ、き、きつつ！ こ、こんな……大きすぎて、口の中、いっぱい……！)

顎を前後させるどころか、舌先を動かすだけの余裕さえない。規格外の巨根を無理矢理挿入され、顎関節が外れてしまいそうなほどだ。もう鼻でしか呼吸できず、息が上がって可憐な美貌が真っ赤に染まる。

「くふうう……ん、ふ、んんん！ んぐうう……ん、ふううう！」

「ふん、少しばかり魔力があるとはいえ所詮は劣等種だな。我々ゼノクライストの民をろくに満足させる事はできないか。仕方ない、なら奴隷らしく犯してやろう！」

満足な奉仕さえできない口辱奴隷に、陵辱者は痺れを切らした。黒髪を掴んでいる腕にぐつと力を込めると、少女の頭部を無理矢理に前後させてペニスを抜かせる。

「んぐうう……ん、んんん！ んぶうああ、んつぐううう〜！」

ずぼ、ずぼずぼずぼずぼつ！ 啞えるだけでも限界だった極太が、力任せに抜き差しされる。そのたび巨大すぎる亀頭に頬肉を抉られ、咽喉を穿られ喉奥を打ち抜かれた。逃げたくても黒髪をガツシリと固定され、乱暴なイラマチオを無理矢理に受け止めさせられる。

「くぶうう、んんう、んう、んぐううう！ んぶうう、んつふううう〜！」

顎が外れてしまいそうなほどの衝撃に、悲痛な声を漏らすソードエンジェル。あまりの激しさに意識が飛びかけ、とてもご奉仕するどころではない。

「おい、手が止まつてるぞ？ これ以上役に立たないとなれば、他のヤツに代わって」

「んふああ……ああ、だ、だめ……んぶううう！ わたひつ……い、一生懸命するから……んはあ、はあ、ああああ！」

仲間を引き合いに出され、リョーコは死に物狂いで叫んだ。半ば無意識のまま、調教で仕込まれた通りに指を動かし、必死でご奉仕を再開する。カリ首を締め上げながら、親指の腹で鈴口をクリクリと擦ってやると、掌の中で雄肉がビクビクと痙攣した。

「おう、いいぞ。やればできるじゃねえか。だがもつとだ……教えた通り、胸も使えよ」
「うあつ……わ、わかつたあ……んう！ む、胸ですれば、い、いいんでしょ……ッ！」

恥辱の指示にも、今は従うしかない。破れたコスチュームから剥き出しの乳房へ亀頭を誘うと、リョーコは柔らかな乳肉にその先端を押しつけた。固い亀頭を汗まみれの乳肌に食い込ませるようにしながら、グリグリと擦りつけ乳肌でご奉仕する。

「おお、いいぞ。やはり地球人の肌のきめ細かさは素晴らしいな。チンコにもちもちと吸いついてきやがって……戦士としては無能でも、性奴隷としての素養は一流だな！」

「まったくだぜ。口だつていくら犯しても飽きやしねえ。並のマンコよりいいくらいだ！」
下卑た寸評が、正義のヒロインの矜持をズタズタに引き裂いていく。だが、屈従の天使に嘆いている余裕はない。滅茶苦茶に犯され続ける口壺の中でもなんとか舌を動かし、暴れまわる亀頭を舐めしやぶり、リョーコは際限ない男の要求に必死に応え続けた。

（い、今は……今はこうするしかない。みんなのためだもん……た、耐えてみせるわ！）
すべては仲間を助けるため——その姿は健気と言うよりも、もはや悲痛だった。



「おうおう、必死になってチンコに擦りつけて、涎零しながらしゃぶりまわして。滅茶苦茶にやられて燃えてきてるんだろ？ ケツ穴もキュンキュン締まってきてやがるぞ？」

「はぶううつ、や、そ、そんな……はああああ、お、お尻……激し……いっ！」

ずぶ、ずぶずぶずぶずぶ！ 真下からアナルを串刺しにしているペニスも、激しいピストンを開始した。お口とお尻、上下で繋がっている肉穴を同時に激しく突き犯され、マゾヒスティックな虐悦が身体の中で荒れ狂う。さらには魔法貞操帯の触手蠕動も加速し、溢れる愛液を掻き混ぜながら膣壁を何度も何度も擦られた。

「ひっ、ひ、くひいんっ！ う、動かないで……だめ、らめ、らめええ！ い、今そんなにされたらっ、ひああ、お、お尻と一緒にされたらっ……ああ、ひいひいっ！」

道具のように口壺を乱暴に扱われ、開発されきった尻穴を激しく犯しぬかれ、鋭敏な膣内を無数の触手に可愛がられ——幾つもの辱悦が混ざりあい、耐え難い快感となって駆け巡る。両掌でも脈を速めるペニスの律動にも圧倒され、リョーコの理性が消えていく。

（うああ……だ、だめ、だめえ！ このままじゃ、わ、わたし……また、また……！）

ゾクゾクと駆け巡る、危険な期待感。心では否定していても、肉体は勝手に貪つてしまふ——獄中調教で嫌と言うほど教え込まれた、女としての決定的な敗北の美味。

きゅんつと子宮が縮み上がり、マゾヒスティックな期待感が止まらない。

「いいぜ、イケよ。俺達も一緒にいつてやるからよ。尻穴に射精されていつちまいな！」

「ひいっ、い、いや……いやあ！ お尻でなんてイキたくな……あああ、あつはああ〜！」

ドブ、ドブドブドブドブドブ!

腸奥までねじり込まれた巨根が、予告通りに火を吹いた。煮えたぎるように熱いザーメンが、腸内隅々にまでたつぷりと注がれていく。

「うああ……す、すご……んひいいい! あ、あついつ……うああ、い、いっばいいい〜!」

地球人とは比較にならないほどの量と勢い。排泄孔を隅々まで埋め尽くされる被辱感に、残り僅かな少女の理性は一気に消し飛ばされる——その瞬間、

「俺も出すぞ。命令通り一滴残らず飲み干すんだぞ、おら、おらあああ!」

「お、俺達もイクぜ。ひひひつ、思いつきりおっばいにぶっかけやるぜ!」

ドブツ! ドビユ、ドビユドビユドビユドビユ!

口内と両手、必死で奉仕を続けていた三本のペニスが、同時に欲望を解き放った。喉奥にまで突き込まれた巨根に濃厚なザーメンを流し込まれ、乳房に食い込んだ肉棒にゼロ距離で灼熱をぶちまけられる。

「あ、あああああつ! そんなつ、こ、こつちも出て……んぶうう、ぐつぶうう〜!」

ぐつと髪を掴まれ、喉奥で直接大量の精液を受け止めさせられた。すでにパンパンだった口壺にさらに大量の粘濁をぶちまけられ、窒息しかけながら精液を飲まされる。腸内への射精も未だに続き、上と下から大量のザーメンが終わる事なく注がれ続けた。両手の中でも逞しく脈を打ち続け、大量のザーメンがDカップの巨乳にかけまくられる。

（うああ、す、すごつ……! こんな、こんなにされたら、わたし、もう、もう……!）

この続きは製品版をご購入の上、
お楽しみください。

編集・発行

株式会社キルタイムコミュニケーション

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7ヨドコウビル

TEL03-3555-3431 (販売) / FAX03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©KILL TIME COMMUNICATION Printed in Japan

<http://ktcom.jp/>

あとみっく文庫最新刊

ちょっと大人のライトノベル / 毎月下旬ぞくぞく刊行中!! 定価 / 本体690円(税込)

全国書店で
好評
発売中



「当方Mドレイ希望」
魔界最強のプリンセスがドレイ志願!?

不死の吸血姫がドSのご主人様を募集
しているようです
【小説：酒井仁 / 挿絵：この子】

全国書店で
好評
発売中



「魔法の天使ルイエ・ルル」
地球の未来はルルにおまかせよっ☆」

魔海少女ルルイエ・ルル
【小説：羽沢向 / 挿絵：ピエール☆よしお】

借金お嬢クリス3
令嬢はいかにして42兆円を返済したか?
【小説：筑摩十幸 / 挿絵：了藤誠三】



全国書店で
好評
発売中



「クリス、悪魔堕ち!」
「愛するジグレット様のため、死んでもらいますわっ!」

既刊LINEUP
全国書店で好評発売中

- 仙獄字艶戦姫 / ノブナガ! ①～③
- 思春期なアダム ①～②
- 殉業!帝都少女探偵団 赤い眼帯を巻いて!

- 借金お嬢クリス ①～②
- プリンセスリバーシ! 文藝する美姫と魔姫
- BLANGEL 輪になりて語る悪者の夜

- 無敵の姫騎士がMMに目覚めたようです
- ビルクムメイデン ①～②
- 呪詛喰らひ師 [カースイーター]



キルタイムコミュニケーション オフィシャルサイト

<http://ktcom.jp/>

- 雑誌、コミック、小説の**通信販売**もやってるよ!
- 二次元ドリームマガジン・コミックアンリアルの**バックナンバー**も買えるよ!
- ジャンル別**で作品も選べて超便利!
- 二次元編集部**の愉快的Blog**も更新中!

Valkyrie

<http://www.comic- Valkyrie.com/>

KTCの戦うヒロインオンリー漫画雑誌! 18禁ではないからこそ表現できるドキドキがある!!

cranberry

<http://www.cran-berry.com/>

二次元ドリームノベルズがアニメにも進出! 新生ブランド・cranberryをよろしく!!

mille-feuille

<http://www.mille-feuille.jp/>

二次元ドリームノベルズから生まれた美少女ゲーム! 「ミルフィーユ」ブランドにて続々登場!

モバイル二次元ドリーム

<http://www.2d-dream.jp/>

二次元ドリームノベルズが携帯電話で読める! 携帯サイト限定の書き下ろし小説もあるよ!